



お客さまが欲しいものをいつもご用意、今年度のローソンは“夕夜間元年”

お客さまが欲しいものが、いつも過不足なく揃っていること——。
ローソンは2018年度を「夕夜間元年」と位置づけました。
朝昼はもちろん、夕方も夜間も十分な品揃えでお客さまをお迎えします。

16時以降のポテンシャルに注目

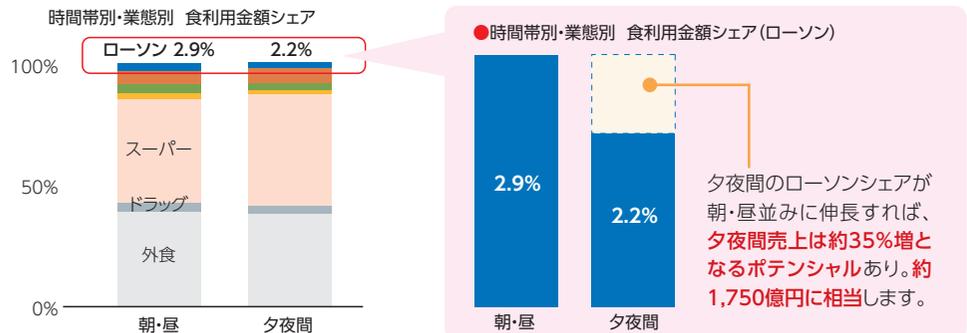
コンビニエンスストアに足を運ぶお客さまが最も多いのは昼前後の時間帯です。昼食のお弁当やおにぎり、サンドイッチ、飲み物などとともに必要な日用品を求める方が多数おられます。一方、一人暮らしの人や働く女性、学生、子育てに忙しい主婦など、夕方以降に訪れる方が増えているのも事実。その時、店内には、十分な選択を楽しめるようなさまざまな品が揃っていることが大切です。

ローソンでは2018年度を「夕夜間元年」とし、16時以降の品揃えにより一層の力を入れ

ています。これまで外食・スーパーマーケット・ドラッグストアなどを含む食利用金額シェアでは、ローソンは朝昼が2.9%に対して夕夜間は2.2%。これを朝昼並みに伸ばせば、夕夜間売上は約35%増となります。

この隠れたポテンシャルを最大限に活かすと同時に、マチの人々の毎日の暮らしをこれまで以上に支援していくため、ローソンでは現在、夕夜間の弁当・惣菜の充実や、発注・物流体制の大幅な改善など、新たな取り組みを続々と実施に移しています。

●夕夜間マーケットの市場シェア



店舗力強化への抜本的取り組み

お客さまにとって必要なもの、欲しいものが店頭から途切れることがあってはなりません。そのためローソンではこれまで、客層拡大と夕夜間の品揃え強化を目的としたさまざまな取り組みを積み重ねてきました。

2015年にはPonta会員の購買データを分析し、お弁当など対象カテゴリーごとに一つひとつの店舗での需要予測をベースとし、発注業務を簡素化する「セミオート発注システム」を導入。Ponta会員数は8,700万人を超え、予測精度も一段と向上しています。2016年からは日配食品や冷凍食品をはじめ店舗全体の取扱いアイテムを15%増やし、スーパーマーケットの代わりに利用していただくための品揃えにしました。

2017年にさらに取り組みを進めたのが、カウンターFFの店舗オペレーション強化です。タブレットを導入し、調理タイミングなど店舗のワークスケジュールを“見える化”。さらに、カウンターFFのでか焼鳥など夕食のおかずに適した惣菜のラインナップも増やしました。

そして2018年は、自動釣銭機付の新型POSレジの展開を拡大するほか、店内調理のまちかど厨房を展開する店舗を中心に約3,000店舗に食

洗機を導入。こうした新しい設備の導入で店舗オペレーションを効率化し、カウンターFFや店内調理の時間を創出していきます。さらに、各店舗からの発注時間や店舗への配送スケジュールを見直すことで、店頭作業効率アップや納品リードタイム短縮によるさらなる発注精度を実現し、従来以上に夕夜間に備えた売場づくりの実現を目指します。弁当やおにぎりなどのパートナー工場や配送センターなど、サプライチェーンを支えるすべてのお取引先を含め、ローソングループ一丸となって夕夜間強化に向け仕組みを刷新し、16時以降の夕夜間におけるお客さまニーズにお応えしていきます。





仕事などの帰り道の夕夜間、お客さまの欲しいものがいつでも棚いっぱいにあること。それがローソンの目指す姿。当日朝に注文した生鮮食材を夕方以降に受け取れる新サービス「ローソンフレッシュピック」も一部店舗でスタート。仕事帰りに受け取るついでに店内を回り、他の必要なものも買って帰るお客さまも多数です。

マチで暮らす人々の日常生活をサポートする存在に。ローソンは、今後も品揃えの改善とサービスの強化を継続し、お客さまの笑顔を励みに、さらなる成長を目指します。



●次世代コンビニエンスストア構築に向けた取り組み

2015年度 ・セミオート発注システムの導入 ・新FC契約への移行促進

2016年度 ・冷蔵・冷凍ケースの拡大 ・日配食品、冷凍食品の強化

2017年度 ・惣菜FF(でか焼鳥)の強化 ・タブレット型端末の導入
 ・中食(おにぎり屋、弁当)の強化 ・ローソンイノベーションラボの開設

2018年度 ・発注締め時間変更 ・ダイヤグラム変更
 ・新型POSレジ導入 ・ローソンフレッシュピック



●売場強化:16時にお客さまを迎える仕組み

発注・締め時間の変更

- ・リードタイム短縮
- ・ピークタイムを避けた発注

物流体制

- ・ダイヤグラム変更
- ・便ごとのカテゴリー構成の見直し

品揃え

- ・セミオート発注を活用し、3便(午後便)強化

ワークスケジュール見直し

- ・タブレット型端末の活用
- ・カウンターFF作成のオペレーションを標準化

